

## 要介護高齢者の食を支える口腔ケア推進のための北九州市の取り組み 第2報

白木裕子<sup>1,2)</sup> 加賀美由旗<sup>1,3)</sup> 川崎節子<sup>1,4)</sup> 松本恵美<sup>1,5)</sup>

NPO 法人ケアマネット21<sup>1)</sup> 株式会社フジケア<sup>2)</sup> 恵友会ケアプランステーション<sup>3)</sup> ケアプランハッピーハウス<sup>4)</sup> 小倉医師会ケアプランセンター<sup>5)</sup>

平成24年度、北九州市において、市歯科医師会、歯科衛生士会、ケアマネジャー、地域包括支援センターを含む行政等が協働して「要介護高齢者の食を支える口腔ケア対策事業」を実施した。本事業において歯科医師を対象にアンケート調査を実施した結果、在宅歯科診療を行っている歯科医師の多くが、要介護高齢者の口腔ケアとその継続性の不十分さと併せてケアマネジャーとの連携が不足していることが判明した。今後、ケアマネジャーの口腔ケアに対する理解を深め、ケアマネジメントに科・口腔保健が適切に位置づけられるよう、かかりつけ歯科医とケアマネジャーとの連携促進により一層取り組む必要がある。

### I：研究目的

要介護高齢者のケアマネジメントにおける口腔ケアや訪問歯科診療の実態を調査し、今後の歯科と介護の連携促進、口腔ケアの普及・促進を図る上での課題を明らかにする。

### II 研究方法

北九州市歯科医師会に加入している歯科医院を対象に郵送で調査票を配布し、303名より回答を得た。(回収率50%)

アンケートは「基礎質問」「過去1年間の訪問歯科診療の実態」「過去1年間訪問歯科診療を行っていない実態」の3項目、26問の構成による設問とした。

北九州市において、訪問歯科診療を過去1年間で行った歯科医師は38%であった。また、過去1年間の訪問歯科診療を対象とした患者数は平均20名であり、訪問回数は63.2回であった。

訪問先は患者の自宅が74.6%と最も高く、次いで有料老人ホーム・グループホームなどの入居系施設37.4%であった。紹介元は、診療所に通院していた本人・家族からの依頼が69.3%であり、ケアマネジャーからの依頼は4位の25.4%であった。

要介護者の口腔ケアについては、回答者の92%が口腔ケアの必要性を感じていると答えた。

ケアマネジャーとの連携については、「連携を図っ

ていない」が約60%であり、連携を図りにくい要因については、「担当ケアマネジャーがわからなかった」が60%で最も多かった。

また、訪問歯科診療の実際に携わる歯科医師に対して、他職種との連携の課題について質問したところ、「口腔ケアについての知識の不足」を指摘したものは60%であり、「訪問診療後の口腔ケア等の継続がない」ことを指摘したものは46%であった。

### III 考察

高齢者にとって口腔ケアは肺炎防止、窒息予防、咀嚼力の維持、発音など、生活の質を維持し、高めるうえで不可欠な機能である。

本調査から、実際に訪問歯科診療を行っている歯科医師とケアマネジャーおよび他職種お連携も不十分である課題が明確となった。

今後は、要介護高齢者の支援において、かかりつけ歯科医についてもケアマネジャーは把握することが必要であり、最終受診日などをアセスメントすることにより、ケアマネジャー側からの連携を図ることが重要である。

また、これらの課題を解決するために、北九州市では、北九州市歯科医師会とケアマネジャーの合同研修会・事例検討会を実施することとしており、お互いに顔の見える関係を構築していくことが不可欠である。